「わたしのもとに来なさい」

マタイによる福音書　１１：２５～３０

２０２３年１１月5日
召天者記念礼拝
野村　友美 師

＜疲れた者、重荷を負う者は＞

今読んでいただいた聖書の言葉は、とてもよく知られている言葉のひとつでしょう。

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」

イエス様が語られたこの招きの言葉は、たくさんの教会の入り口や、礼拝堂の中に掲げられています。本当に、どれほどたくさんの人が、このイエス様の言葉に慰められて、ホッとして、イエス様を信じる信仰に招かれてきたことでしょうか。

悩みを持たない人が一人もいないのと同じで、重荷を背負って疲れていない人だって、一人もいません。

今日ここに集まっておられるみなさんも、多かれ少なかれ、それぞれの疲れや重荷を背負って、毎日を生きておられると思います。

生きるってとても素敵なことですが、本当に大変なことでもありますよね。

私たち人間は、この体の命を終える時まで、笑ったり泣いたり悩んだりしながらそれぞれの重荷を背負って、どうにかこうにか生き続ける者です。

だからイエス様は、いつでもどんな人でも、「この世界で生きる」という重荷を背負っている一人一人をご自分のもとに招いておられるんです。

命の造り主である神様は、命を与えたすべてのものを愛しておられます。一人一人を髪の毛の数まで知り尽くしていて、誰も神様から離れたままで、寂しく孤独に滅んてほしくないと願っておられます。この揺るぎない事実を受け入れて、神様と共に生きる平安を得るように、そして神の国の永遠の命を受け取るようにと、すべての人がイエス様のもとに招かれています。

召天者記念礼拝の今日、私たちは改めてこの招きに心を向けていたいと思います。

＜召天者を記念する礼拝＞

そう、私たちは今日この礼拝堂で、召天者記念礼拝を献げています。先に天に召された愛する人たち、また信仰の先輩たちを思い起こして、神の国での再会に思いを馳せる礼拝です。

私たちのこの１年間にも、いくつかのお別れがありました。先に天の御国に移されたお一人お一人が、それぞれに与えられた命を、それぞれの精一杯で生き抜かれて、今は神様のもとで安らいでおられる。このことに私たちは慰められ、また自分たちの人生の希望としています。

生きるのは大変だけど、いつかこの人生を生き終わったら、重たい荷物を全部降ろして、天国でゆっくりできる。

そう思えるのは、日常生活のあれやこれやに疲れている私たちにとって、本当に心が癒されることでしょう。ただ、イエス様が言っておられる「休ませてあげよう」は、私たちがこの体の命を生き終わってからのことだけじゃないんです。

重荷を背負って必死で歩いている、その人生の一歩一歩の間にもイエス様は「来なさい、あなたを休ませよう」と呼んでいてくださいます。

疲れたままで、重たいままで、歩き続けなくたっていい。わたしのところで休んで、わたしと一緒にまた歩き出そう。そう言って、今まさに人生の重荷に疲れている一人一人を休ませようとしてくださっているのが、今日のイエス様の言葉なんです。

＜わたしのもとに来なさい＞

イエス様のところで休んで、イエス様と一緒に歩き出す。そのために必要なものは、特別な資格でも深い知識でもありません。

「わたしのもとに来なさい」という招きの言葉の前に、イエス様はこう言っておられます。

「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵のある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。

そうです、父よ、これは御心に適うことでした。」

知恵も賢さも、あるに越したことはないでしょう。目の前のことを正しく受け止めるために、自分や大事な人たちを守るために、知恵も賢さも私たちには必要です。

ただ、「私はちゃんと知っている、わかっている」って自分の知恵や賢さに自信があると、かえってそれが邪魔になって、見えなくなってしまうものがあるんじゃないでしょうか。

幼い子どものように、自分の弱さと頼りなさを知っている人。　「私には助けが必要だ」と知っていて、イエス様に助けを求める人にこそ、神様の愛と救いははっきりあらわされる。

そうイエス様はここで宣言なさっているんです。

だから「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとに来なさい」とイエス様は、生きることの重荷を背負うすべての人を招いておられます。

どれだけ聖書を読んでいるか、どのぐらい神様やイエス様のことをわかっているか、なんていうことは、ここでは問題にされていません。

私たちに命を与えて、今日も養っておられる神様の愛を信じるなら。イエス様が私を助けてくださ

る、と信じて頼るなら。
「来なさい。休ませてあげよう」とイエス様は、いつだって両手を広げて、私たち一人一人を待っておられるんです。
もちろん、イエス様を信じてクリスチャンになったら何の苦労もしなくなる、なんていう都合のいい夢みたいなことは、残念ながらありません。
苦労したり悩んだりするのは信仰が足りないからだとか、苦労を喜べないのは本当の信仰じゃないとか、そう考えられたら、きっと単純明快でわかりやすいでしょう。
でもそれは的外れなんだと、今日のイエス様の言葉が私たちに教えています。

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。
　わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。
　そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。
わたしの軛は負いやすく、
わたしの荷は軽いからである。」

背負う荷物がなくなる、苦労がゼロになる、なんてことはイエス様は一言もおっしゃっていません。重たい荷物は相変わらず、休みたくなるぐらい重たいんです。
生きている限り私たちは、悩みも悲しみも怒りも味わわずにはいられないでしょう。でもその重たさを、辛さを、痛みを、一人っきりで背負わせたままにはしない。そういうことをイエス様は「わたしの軛を負いなさい」という言い方で
約束しておられるんです。
「軛（くびき）」って、みなさんご存知ですか？ご覧になったことはあるでしょうか？私はありません。日常生活の中では、あんまり聞かない言葉ですよね。
軛というのは、牛や馬をつないで荷車を引かせたり、農作業をするための道具です。一頭だけつなぐ軛もあれば、二頭を一対にしてつなぐ軛もあるそうです。二頭の牛や馬を一つの軛でつなげば当然、二倍の力で働けます。一つの軛につながれた二頭のように、わたしがあなたと一緒に、重荷を背負って歩いていこう。
そういう約束をイエス様は差し出しておられるんです。イエス様が一緒に背負ってくださるなら、二倍どころじゃなくて、どんなに重たい荷物だって、軽々と運べそうですよね。
　ただひとつ、心に留めておきたいことがあります。イエス様は「わたしの軛を負って、わたしに学びなさい」と言われました。あなたの軛にわたしも繋がれよう、あなたのやり方に従おう、じゃないんです。　私たちが一人で背負っていた重た

い荷物を降ろして、イエス様と一緒に新しく背負うものは、私たちの軛じゃありません。
私たちのやり方に、イエス様が繋がれるんじゃなくて。私たちが自分の好みや基準で選んだものを、イエス様に手伝わせて、一緒に背負わせるんじゃなくて。イエス様の軛で、イエス様のやり方で、イエス様が選んだ新しい荷物を、一緒に背負って歩いていく。それが、イエス様のもとに重荷を降ろした人の新しい人生です。
「わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしに学びなさい。」
そう呼びかけておられるイエス様の軛は、神様を愛して人を愛する「愛の軛」です。
神様を無視して、自分のやり方を押し通すんじゃなくて。自分と誰かを比べて、勝ち負けを決めたり、優劣をつけるんじゃなくて。
神様が命を与えて愛しておられるかけがえのない存在として、自分のことも他の人のことも、同じように大切にする。
この愛の軛に繋がれるなら「あなたたちは安らぎを得られる」、あなたたちの魂に休みが与えられる、とイエス様は言われます。
「柔和で謙遜な」方、イエス様の愛の軛に繋がれるなら、たとえ苦労の真っただ中にいる時でも、心の底からホッとできる。
そんな休息が約束されている、というんです。
生きることは大変です。
悩みも悲しみも、怒りも不安も、私たちの人生から消え失せてしまうことはありません。
体も心も疲れて動けなくなる日が、きっとこれからもやって来るでしょう。それでも、重たい荷物を背負う一人一人を、今日もイエス様が「来なさい、休ませてあげよう」と招いておられます。
　神様から愛されているという安心を、イエス様が私たちに思い出させてくださいます。この体の命を生きる苦労も、やがて迎えることになる死も、そして死のその先までも、神様の愛に覆われて安心して乗り越えていける。
この平安の約束が、召天者記念礼拝の今日、私たちに改めて差し出されているんです。
「わたしのもとに来なさい」と招いておられるイエス様に応えて、それぞれの重荷をイエス様の足元に降ろして、１日１日を乗り越えていけますように。
日々新しい愛の軛に繋がれて、イエス様と一緒に人生の旅路を歩き続けられますように。
神の国の平安がみなさんと共にありますように。
お祈りいたしましょう。